

第11期 第4回 練馬区循環型社会推進会議（発言要旨）

日時、場所	令和4年12月12日（月） 9時30分～11時00分 練馬区役所本庁舎5階 庁議室
出席者	出席委員 12名 庄司委員、森（朋）委員、入江委員、佐藤（良）委員、 長坂委員、松浦委員、森（哲）委員、高橋（司）委員、 鈴木委員、佐藤（公）委員、市川委員、高橋（庸）委員 事務局 6名 環境部長、環境課長、清掃リサイクル課長、みどり推進課長、 練馬清掃事務所長、石神井清掃事務所長

【次第】

1 開会

2 議題

令和3年度練馬区第4次一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について
加熱式たばこ等に係る周知について

3 その他

4 閉会

議 事 内 容

会長

おはようございます。

第11期第4回の練馬区循環型社会推進会議を開催します。

事務局から本日の出席状況をお願いします。

事務局

ただいまの出席委員数は11名です。1名、遅れて参加する旨の連絡をいただいています。

当会議の定足数は8名なので、本日の会議は成立します。

会長

本日の議題は2つです。事務局から報告をお願いします。

清掃リサイクル課長

（議題（1）資料の説明）

続いて、議題（2）加熱式たばこにかかる周知についてです。

お手元にある黄色いチラシと、11月21日号区報の記事をご覧ください。

可燃ごみや容器包装プラスチックに混入したモバイルバッテリー、電子たばこ・加熱式たばこによる火災事故が急増しているため、それらの廃棄の仕方について、11月に周知したものです。

昨年の12月に開催した第1回の当会議でいただいた、緩急をつけ特化した周知を凶って
はという意見を踏まえ、今回は3品目のみを取り上げました。

以前であれば、分別全般の説明から入って、本題、今回の場合でいう「容器包装プラスチックにモバイルバッテリーなどの適切でないものが含まれている」という形式の記事を策定していました。今回は、区報、ホームページ、動画などを用いて本題に切り込む形で作成しました。

動画も作成したのでご覧ください。

(動画視聴)

報告は以上です。

会長

今の報告について、意見、質問等があればご発言ください。

委員

ごみ量が前年より減っているのは、すごくいいことだと思います。重点取組でこれだけやっているのに減っているのかと思いますが、それ以外にも、例えばリサイクルが進んでいるとか、イベントをやらなかったからとか、そのような内容を教えてください。

清掃リサイクル課長

新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきたのかはわかりませんが、経済活動が戻ってきていることで、在宅時間が短くなり、家庭ごみの量が減っているのかもしれない。

リサイクル率が上がったことは、ごみの減り方が多かったため割的に上がったという若干受け身な感じがします。

委員

収集された容器包装プラスチックについて、リサイクル事業協同組合で受託をし、モバイルバッテリー等を選別しています。今回いろいろな御指導をいただき、疑わしきものは全てはねるような形で火災事故が発生しないよう対応していくのでよろしくをお願いします。

あと、今まで選別するに当たり、目に見えるようなものであれば大勢の選別作業員の中で必ずはねられたはずなのですが、しっかりと何かに包んで分からないように排出するなど見分けがつかないケースも多々あったと思います。

区民に対する周知についてですが、当区は非常に多くの外国籍の方が在住していると思うので、英語、中国語、韓国語バージョンといいますが、その辺の周知はどのようにしているのかお聞かせください。

清掃リサイクル課長

今回のチラシについて外国版は作成していませんが、外国籍の方が区役所で転入手続をする際に、ごみの分別については外国語版があるので、一緒に配ることも考えていきたいと思っています。

会長

今、練馬区内の外国人の割合はどれくらいですか。

清掃リサイクル課長
3%弱かと思います。

委員

集積所には、何日に何のごみを回収という案内や年末年始の案内を貼ってくれています。モバイルバッテリーについても同じように集積所に表示すればごみを出す人が見ると思います。認識をもってもらうだけで大分違うと思いますが、そのような看板などを設置する予定はありますか。

清掃リサイクル課長

年末年始の予定などシールを貼り、終わったら剥がすようにしています。今、ご意見をいただきました集積所にも貼ることは効果があると認識しています。ご意見を参考にどのような形ならできるか、工夫しながら周知に努めていきます。

会長

他にありますか。

副会長

まとめて3点あります。1点目は素朴な質問です。モバイルバッテリーと加熱式たばこの件で、先ほど見た動画では他の不燃ごみと分けてくださいということで透明の袋に入れていました。しかし、チラシには中身が見えるような袋でとは書いていません。区としては、中身が見えるような袋で出してほしいのでしょうか。

清掃リサイクル課長

ごみを出す際は、可燃ごみも不燃ごみも透明か半透明の中身が分かる袋で出してもらうのが常識になっているので強調していません。その辺も今後は改善していきたいと思います。

副会長

不燃ごみは、可燃ごみと比べて量が少ないので、中身があまり見えないレジ袋に入れて出している方が多い気がすることも気になった点です。

あと、もう一点。この動画絡みです。私もいろいろな動画作成に関わっていますが、再生回数が思ったほど伸びず、作ってアップしているだけでは使ってもらえません。これぐらいの長さの動画だと、学校の授業とかでも使いやすいと思いました。教育関係や他のステイクホルダーの方に動画の活用をPRするようなことはしていますか。

清掃リサイクル課長

全体的な反省も込めてとなりますが、これまで発信力が足りていなかったかなと感じています。経験が足りない部分もあるので、これから改善していきたいと思います。今、ご指摘いただきましたが、小学校4年生の環境学習の時間で職員がごみの関係の話しをしていますので、そういう機会でも広めていければと思います。

副会長

3点目、これは今後に向けてです。いつまでリサイクル率だけ追いかけるのかという意見です。世の中では、リサイクルは3Rの中で最後の手段として取られています。国でも世界でも、これからは発生抑制をいかに促すかに議論の主軸が動いてきています。

特に今後は、カーボンニュートラルの温暖化の施策と絡めていくとなると、リサイクルではなくて、発生抑制を重点施策としてどうするか。中でも、既に挙げられている食品ロスとプラスチックの発生抑制をどう位置づけて、それをどう評価していくのかということが極めて重要になると思います。

恐らくどの自治体でも重要なテーマになると思うので、今後検討していただければと思います。

清掃リサイクル課長

これまでも3Rを区でも強く押し出していました。清掃・リサイクルの視点から収集、運搬に絡めるとどうしても行き着く先はリサイクルでした。今後は、カーボンニュートラルの問題もあるので、視野を広げて発信しないといけないと思います。

一例ではないですが、今まで、古布、古着の回収の際に「衣替えの時期だから回収します」と周知していましたが、去年からそのような表現はやめました。衣替えだから捨てなくてはいけない、リサイクルに出さなければいけないわけではありません。以前、ぼろぼろになるまで使わないとカーボンニュートラルには到底到達できないというお話もいただいたので、そのような視点も入れながら普及啓発も進めたいと考えます。

委員

課長の話で、可燃、不燃ごみは透明もしくは半透明の袋で出すという話がありました。東京都指定のごみ袋は透明ではなく中が見えないです。

都内はスーパーのレジ袋でもごみが出せます。スーパーのレジ袋はほとんどが透明ではなく真っ白なので中が見えません。大体はそのような袋でごみを出すことになるので、スーパーに依頼して、スーパーのレジ袋を極力半透明ぐらいの袋にするのはどうですか。

清掃リサイクル課長

収集時に中身が見えず怪しければ、その場で袋を破り確認します。ただ、黒い袋のように破かないと最初から中身が分からないものは困ります。

透明な袋が一番いいですが、レジ袋程度なら全然中身が分からないわけではないので、支障がないわけではないですが、できないことはないというところです。

委員

スーパーのレジ袋は半透明の部類なのですか。

清掃リサイクル課長

はい。

委員

ごみ袋の問題ですが、外国では、昔、日本で使っていた黒いごみ袋を依然として使っている国があります。

一番困るのは、日本で働く外国人は日本語も分かるのですが、日本に呼ばれた家族は日本語が分かりません。光が丘は既に外国人の割合が2割を超えています。黒いごみ袋が日常茶飯事が出てきています。現地で使っていた黒いごみ袋をそのまま日本に持ち込み、もったいないということで使っているのが現実ですが、現場を見つけて注意をすると「日本語が分かりません」と首を振ります。

外国人対策は、ごみの問題だけではなく、いろいろなところで出てきていますし、今後増えることは間違いありません。今までなかったことが不思議であるにご理解いただき、行政等も大変ですが長い目で指導する以外、方法はないのが実感です。

会長

ごみの出し方のルールについて「分別」を一番強調していると思いますが、昔の出し方は容器、いわゆるごみバケツで出すというのが原則でした。しかし、容器で出すということは片づける手間があり、世帯構成、家族構成、ライフスタイルの問題等があり、袋でもいいという形に切り替わっていった経緯があります。

今は袋が大半で、袋は半透明ないし透明というのが当初のスタートでしたが、その辺の問題を含めたPR、周知はどのようになっていますか。

清掃リサイクル課長

ごみの分け方・出し方、ホームページ、アプリなどで周知をしています。また、例えばある集積所で出し方が荒れていて困るなどの場合には、清掃事務所の担当からその集積所の利用者に個別に出し方について指導しています。

会長

区は分別については非常に強調していますが、袋についてはどうですか。

清掃リサイクル課長

透明か半透明の袋という言い方をしていますが、強調しては言っていません。

出し方についてお問合せをいただいた場合は「必ず透明か、半透明の袋に入れてください」と回答しますが、一般的な広報ではそこに力を入れていません。

委員

業務スーパーで「袋をお持ちですか」という質問をされ、「いいえ」と言うと、できるだけレジ袋は利用せず段ボールに詰めてお持ち帰りくださいと案内されます。

全ての業務スーパーではないのですが、そういう店も出始めたということは情報としてお話ししておきます。

委員

普通のスーパーでも、段ボールで持ち帰れるように用意されているところはたくさんあります。とてもいいことだと思います。

委員

店側にそういう指導をする必要がありますね。

会長

今は、ごみの減量という意味でレジ袋を使わないようにしようというのが大筋としてあると思いますが、そういう視点が入っていることを何かしていますか。

清掃リサイクル課長

特段、レジ袋を減らすための対応はしていません。

レジ袋が有料化したとき、ごみを出す袋はどうしたらいいか質問が殺到すると思っていましたがありませんでした。ごみの袋がなくなってきたから今回は買い物の際にレジ袋に入れてもらうというようにコントロールされているのかと思います。

委員

今はごみ袋用の袋を買わないと、ごみを出すときの袋がありません。

値段的にはそれほど変わりませんが、有料で袋をもらうか、まとめてごみ用の袋を買っておくか。エコバッグを持っていても、結局ごみ用の袋を買わなければいけません。

袋を無料でもらえたときは、それをごみ袋に使ったのでごみ用の袋は買いませんでした。ごみを出す袋は要るので問題はその辺りだと思います。

副会長

国立環境研究所のデータを見ると、スーパーで配られたレジ袋の量と、ごみを出すときに使われたであろうレジ袋の数を比較すると、圧倒的にスーパーで配った枚数の方が多いという結果でした。つまり、ごみを出すためにレジ袋が必要という割には、全部は使われておらず、多くの場合、レジ袋は1回商品を入れただけで捨てていることになります。施策としては、レジ袋の枚数自体を減らしていくのがいい方法なのかなという結論でした。

会長

私は「レジ袋を有料化するとごみを出す袋がなくなり、わざわざ買うことで、結局は袋として使うプラスチックの量は変わらない」ということをよく聞きました。そして、先ほど、データでそんなことはないということが立証されていると聞きました。

ごみ袋として使う有効利用のメリットは否定しませんが、ごみ袋として使えるものは大きい袋です。レジ袋はごみになるものが圧倒的に多いと思います。スーパーなどは大きな袋のことが多いですが、コンビニなどは小さな袋のことが多くごみ袋になりません。

レジ袋をなくしていくことは、ごみを減らすという点では最優先のことであり、ごみ袋問題については、また別の視点から考えるべきだと思います。

委員

私はレジ袋をなくした方が、ごみが増えた気がします。

なぜならレジ袋の代わりに、無料の薄い袋に包んで商品をマイバッグに入れます。そして、その薄い袋にごみを入れてから、大きいごみ袋に入れることで二重になるためです。

また、商店街での話ですが、商店街の景品として品物を差し上げる際、レジ袋の有料化前はごみ袋以外を選ぶ人が多かったですが、有料化後はほぼごみ袋を選びます。

それと、電子たばこの充電器は燃えないごみでいいのかなと思っていましたが、たばこを吸う機械本体も燃えないごみなのですね。

清掃リサイクル課長

電子たばこ本体の中にもモバイルバッテリーと同じリチウムイオン電池が入っているため、不燃ごみでお出しいただきたいと思います。

会長

今の話にも出ましたが、気になるのは、レジ袋を有料化したのにスーパーなどで二重包装になっていることです。薄いビニールの袋に買ったものをわざわざ入れたり、家用に持ち帰ったりする人もいます。量的には捉えていませんが、レジ袋の有料化を否定するような結果になっているのではないかと思います。

事業者は、その分のコストをどう考えているのか。行政としても、その辺はどのように考えているか。

水っぽいものに使うなどの理由があり、サービスなのでしょうが、明らかに立派に包装されているものにまで使う人もいて、ある意味では過剰包装でもあります。

清掃リサイクル課長

過剰包装については次の段階で、周知啓発、進めていかないといけないと考えています。

委員

パックのラップはきちんと包装されていても買ったものを詰めていると破れたり、卵が割れたりということを私は何度も経験しています。そのため、無駄だし過剰かもしれませんが、心配なものは薄いビニール袋に入れます。

きれいな状態のものは再利用してから捨てるようにしています。一概に薄いビニール袋に入れることが悪いわけではないことは分かっていたきたいです。

委員

スーパーに置いてある無料の袋は非常に薄い。持ち帰っても、ろくなものに使えないようなものなので、無駄になっていないかなと思います。また、塩化ビニールは入っていないと思うので、焼却炉で燃やしても有毒ガスは出ないので別にいいと思っていました。

会長

量的にはそれほど多くないと思いますが、あの袋を作るための資源の消費、燃やすことによる温暖化の問題はあります。なるべく燃やさないようにしようというのがこれからですから、そういうところから少しずつ変えていく視点も必要だと思います。

委員

スーパーのレジ袋が廃止になったのは、いろいろな意味でプラスチック製品を削減することが目的だと思っていたので、有料か有料でないかということよりも、資源を減らしていくことに重点を置いたものだと考えていました。

先ほどとても感銘を受けましたが、発生抑制になるようなことが、今後はすごくいろいろなことにも必要だと思います。啓発していくことが大切だと思っているので、本当に何が必要で、どういう目的があって、いろいろな政策や、資源、環境を守っていく必要があるのかということ、を、すごく今考えさせられています。

会長

根幹にある発生抑制、原点に戻っていかなければいけないことは大事な点だと思います。

委員

今の話は一般家庭のごみでしたが、事業をやっているところはほとんどがビニールです。企業間でビニールはすごく使われています。

企業間との取引の中でのビニールの規制はしていますか。

清掃リサイクル課長

企業間は事業系のごみになります。産業廃棄物の部類にも入ってくるかと思いますが、例えばリサイクルについて、普通のごみの収集よりもお金がかかるなど、事業者は取り組むのが難しいという話は聞いています。

その辺のところも、これから都や国が事業者間の取引についても、一定の規制など考えていけないといけないのではないかと思います。

会長

事業系廃棄物は、プラスチックに限れば産業廃棄物になってしまいますので、区としてはシステムの手に出せないところです。

ただ、最近、事業系に関するリサイクルの仕組みは大手を中心に、プラスチックも含めて仕組みができつつあるようには思います。

事業者、特に小売店などは、区内の事業者。産業廃棄物だからといって所管外です、とやっている、一廃と産廃の区分も実態的に意味がなくなりつつあるような状況になってきているのでこれからの課題だと思います。

委員

うちの事業ごみは有料で区の収集車が持っていきます。

事業者へ委託してまとめて何でも良いというごみは料金が高く、分別して区に収集してもらう方が安いです。

本当は持って行ってもらいたいのですが「事業ごみです」と回収されないものもあります。集積所が汚くなっているところもあるので、そういうのも注意してもらえるとありがたいです。

清掃リサイクル課長

事業系ごみは一定の量がないと事業者も採算が取れず契約してもらえないことから、目安として45リットルの袋が3袋までの少量であれば有料で区が引き受けています。

例えば商店街全体を回れば採算も取れると思いますが、事業者も経営が厳しいという話も聞いていますので、何とかできればとは考えています。

清掃事務所が指導する場合に、近所の方と同じ業者を使うと回収ルートに無駄がなく、事業者もやりやすいということがあるので、そういうこともお勧めはしていますが、なかなかうまくいかない部分があるという状況です。

会長

他になければ、第11期の最終回なので、感想など一言ずつ話していただくという時間を作りたいと思います。審議はこれで終わりたいと思いますが、いかがですか。

(異議なし)

会長

この審議会是一般廃棄物の減量を含めた循環会議のため事業系ごみも当然対象ですが、事業系は家庭系とは違う細かな問題もあります。区としてもいろいろ考えているかと思いますが、今後、この審議会の場合でも必要なことは議論していきたいと思いますので、区の方でもよろしくお願いします。

それでは、今日の審議予定はこれで終了ということで、一旦、終わります。

最後に一言ずつ、2年間やってきたことについて感想など一言ずつお願いします。

委員

練馬区環境清掃推進連絡会の会長をしています。

あっという間に11期、今後ともよろしくお願いたします。

委員

ごみの分別が割と好きなので、この会議でごみの話を生活者としてさせていただき、いつもありがたく参加させていただきました。

参考までに、先ほどビニールと言っていましたがポリ袋です。ビニール袋は塩化ビニールが入っています。ダイオキシンも出ないのでビニールと表現しない方がいいと思います。

委員

2年間お世話になりました。

マンション管理人の清掃等に携わっていて、ペットボトルのラベルと蓋の分別では、水を入れる大きなプラスチックの中に蓋を入れ、今、10個ぐらい並んでいます。

教育というか啓蒙というか、小さなことでもやればみんなが協力してくれると思います。

委員

何十年前のリサイクルのスタート時点のときに、区の委員をしました。皆で試行錯誤をしながら、道路に一定の距離を置いて箱を並べ、どのくらいの人が入れるかという実験をした際、子どもとお父さんが一生懸命、びんや缶を入れるのを見て、とても感動しました。

何十年も経ち今回の募集を聞いたとき、その後の区の状況について知りたいと思いました。

自分の家にはリサイクルの袋が沢山あり、きちんと分けているので、その作業だけでも結構仕事が増えます。毎日のことなので、意外とこれは大変です。それでも、私はそういうことにとっても関心があり一生懸命やってきたので、今回、勉強でき現状も分かりとても嬉しいです。これからもずっと続けていこうと思っていますので、また勉強させてください。ありがとうございました。

委員

2年間ありがとうございました。

会議の中で、例えば環境問題とCO₂、カーボンニュートラルの問題も含めて、意識づけ、意識の変化を続けていくことが大事だと痛感しました。

一人一人ができることは小さいかもしれませんが、区政の中で、後退することなく、少しずつでも前を向いてやっていくことが大切だと再認識しました。

委員

2年間お世話になり、ありがとうございます。

このような会議に参加するのは初めてで、これからやっていきたいこと、やっていかなければいけないことを考えると、毎回、自分の無力さに打ちのめされますが、小さく見えるようなことを一つずつでも積み重ねていき、今後のよい環境、よい未来に向けて、何かできることがないか、微力ですがやっていきたいと思います。

委員

参加して自分はこんなに無知だったのかと恥ずかしく思っているところです。

教えていただいたことを、商店街の皆にも伝えていきたいと思うので、これからもよろしく願います。ありがとうございました。

委員

恥ずかしながら、本当にごみに意識を持ったことが全くなく、今回参加して考えることがすごくありましたし、本当に勉強になりました。

先ほど委員が言っていたように、分別の入れ物がいつの間にかでき、それが一つの日本の文化になり、分別することが生活の中に入っていて本当に素晴らしいことだと思います。日本人は、本当にモラルをしっかりとっているからできたことですが、海外の方が入ってくると簡単にはいかないです。

私はこの会議に参加して、義務とかの前に、興味が湧きました。この興味が実はすごく大事かと思っています。海外の方には、ごみの分別でも何でも、こうしなければいけないではなく、これがこうだこうなるのだというような、興味が湧かせるような取組をしていくことが、結局、一つ一つの分別につながっていくのかと思います。これをやってはいけない、こうではないというやり方ではなく、興味が湧かせるようなやり方、ポジティブなやり方で指導をすると、ごみの問題というのはさらによくなっていくのではないのかなと感じました。

2年間で勉強させていただき本当にありがとうございます。

委員

リサイクル協同組合の代表理事を務めています。

10年近く委員として、区民の皆様のいろいろな意見、また行政の意見を取り込みながら、区からの受託の事業者として様々な仕事をしています。

先ほどのモバイルバッテリー等による火災の件ですが、この件についても区と綿密に話をして、しっかりとした分別を今後も続けていくというところで努力しているところです。

この会議で常に第一に考えられている発生抑制ですが、我々の事業は、正直、無駄がないと成り立たないというか、古紙なり、びんなり、缶なり、プラスチックなり、本来はほとんど出て、商売になるような形の事業をしています。古紙は、新聞や雑誌が、発生、製造自体が少なくなっていますが、そのかわりにイーコマース等で段ボールの発生が非常に増えていることでカバーされたり、今回いろいろと海外の円安も含めて、古紙は過去にないぐらい新聞の価格がよくなったりしています。それも輸出ではなくて、国内でパルプの手

当が非常に厳しいということで、古紙に注目して、本当にびっくりするような新聞の価格が出ています。いつまで続くかと思いつつ、半年以上続いているような状況です。古紙の持ち去り業者などが発生するのではないかと懸念しているところです。

いずれにしても、業者として、責任を持って区の施策にしっかりと努力していきますので、今後とも、皆さんの意見を参考に会議に出席させていただければと思います。

ありがとうございました。

委員

練馬区教育委員会指導主事の中で今年度は私が環境教育の担当ということで、こちらに参加しています。

学校教育の中で「環境」という教科はありませんが、家庭科では身近なこと、社会科では地球規模のことや社会で起きていることと関わっていくと、例えば今日話題になったレジ袋がなくなって果たして効果があるのかとか、前回話題になったペットボトルのリサイクルについて、子どもたちの方が意外に気づいていたりして、教師側がしっかりと知識を持ち、なぜだろうというところから一緒に調べ学習に入ったり、そういうことに効果があるかと思えます。

ここでの話の一つ一つが大切ないきっかけとして教育活動を担っていくと思いつつ、いろいろと聞かせていただいていたいました。

ありがとうございました。

副会長

2年間、本当にありがとうございました。

いろいろな関係者や年齢層の方が対等の立場で、本当に言いたいことをしっかり言い合っていて、いい会議だと毎回思います。本当に民主主義の根幹だと思います。

最近のごみ問題の大きな潮流として、ごみだけ見ていろいろなことを考えるという時代から、いろいろな他の環境問題のトピックス、温暖化の問題、生物多様性の問題、持続可能な消費と生産、SDGsのゴール12の問題など、ごみとして出てきてしまったものをどうするかという視点から、そもそもなぜごみになっているのか、過程の中で実は他の環境問題に大きな影響があり、いろいろな環境問題は実はごみだけではなくてつながっているなど、そういったこともあるかと思えます。

行政が引っ張って何とかするというところから、最近は、ビジネスの世界でもサーキュラーエコノミーという新しい流れが出てきていて、儲けを出しながら、環境にいいビジネスをしていくというようなトレンドも、ヨーロッパを中心に日本にも流れ込んできています。新しい流れが、行政でも市民でもビジネスの世界でも出てきているのかなと感じます。

私は大学で研究しながら、学生にもいろいろと授業をしていますので、今後、またお手伝いできる機会があれば、先ほどお示ししたごみのマニアックなデータのように、横のつながりや他分野との関係性や最近の状況みたいなものを、可能な範囲で提供していければと思います。

会長

2年間座長を務めさせていただきまして、ありがとうございました。

練馬区の会議の特徴は、いろいろな意見が出て、活発に意見が交わされる非常にいい会議ではないかと私も感じます。

ごみの問題は、ごみを買う人もいないし作る人もいないのです。でも、なぜこんなにごみが出るかというと、買ったもの、作ったものは必ずごみになります。だから、ごみをゼロにするということは、生活をゼロにするということからすると、絶対にできないことです。

作るとき、買うときに、いかにごみにしないように工夫するかが第一で、それが発生抑制の一番の根幹だと思います。やむを得ずごみは出ます。出たものをどのように処理するのが一番いいのか。最近は資源の問題もあり、循環利用という考え方が中心です。

ごみ減量の出発点は、ごみ処理施設が足りないからでした。焼却施設は、23区においては十分出来上がってきました。しかし、埋立処分場は相変わらず逼迫しています。

ごみ処理は、現状のシステムでは必ず埋立処分場が必要です。燃やすことによって容積が20分の1ぐらいに小さくなりますが、それでも燃やす限り、ごみは出ます。リサイクルという形で、ごみはゼロにはならないけれど非常に少なくする方法が出てきました。でも、埋立処分場は必要です。

従前のごみ減量は、埋立処分場が逼迫するからというのが一番の大きな動機でした。今は温暖化防止の観点から「ごみそのものを出さない」ということが重要です。資源を大切にすることもさることながら、ごみが出るとごみを燃やすことを含めて温暖化にかなり寄与します。ごみ処理の過程から出る温暖化寄与率は収集運搬車の排気ガスも含めて3%弱ぐらいとのデータもあります。

また、ごみになる以前に、物をつくる過程で大量のエネルギー消費があります。発生抑制、ごみを出さないということは、ごみの元を作らないということでもあります。しかし、必要なものはたくさんあるため、ゼロにはできません。でも、それをなるべく少なくしていくことが今は求められています。

今までのごみ処理システムの基本の流れは、分別、収集。リサイクルできるものはリサイクル、リサイクルできないものは燃やし、燃やすのも最小限に容積を小さくする。これからはその工程をなるべく少なくする。発生抑制、ごみにならないようにすること、ごみを作らないようにすることを、ごみを考える現場でも考えていかなければならない時代になっていると最近思います。

もう一つは、プラスチックごみです。ごみ処理の過程でも非常に問題がありますし、作らないようにしていく発生抑制が大事です。プラスチックごみをどうするか。よいリサイクル、循環利用を考えないといけません。プラスチックを作らないということはもちろん、出たごみをどのように処理、資源化していくか、新たな視点でごみ処理システムを根本的に改めていく状況かと思えます。今後の会議の課題はそのあたりかと思えます。

この会議のいろいろな議論は、生活の身近なところから出てくる問題が多く取り上げられ、非常に活発にいろいろな意見が出ます。微力でも役に立てていければと思います。いろいろとやらなければいけないことはたくさんあると思っています。

(拍手)

環境部長

この会議は活発な会議だという話がありましたが、活発な議論の中で、確かにそうだと気付かされる発言が毎回ありました。それを課題として捉えて政策に結びつけていかないといけないと感じることができる会議でした。本当に2年間ありがとうございました。お礼を申し上げます。

今後の話ですが、大きな話としては脱炭素があります。清掃リサイクルの分野は永久に変わらない環境問題の原点みたいなもので、人間が社会をつくって生活している限り、ごみはなくなる。ではどうしたらいいのかというのが環境行政の原点の話で、昨今の気候の激甚化、台風の大型、大雨、雷等、大きなテーマとしては地球の温暖化をどうやって少しでも抑えるか。元に戻すのは難しいと思いますが、少しでも抑えていかないと根底から私たちの生活が成り立たなくなるという非常に大きいテーマがあり、それに向かって今年の1月に区長が脱炭素宣言をさせていただきました。

具体的な計画は今、作っています。その計画に基づき、改めて本会議や環境審議会など、関連する会議を少し整理して再出発したいと思っています。

その際には、皆様方には、ぜひ積極的に御応募いただき、区の環境行政に御協力いただければ大変ありがたいなと思っています。

11期の終わり、2年間の終わりということで長いことありがとうございました。

会長

2年間、私たちなりに一生懸命やってきました。私たちの任期は終了させていただきます。お疲れ様でした。